

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法
大石神影流劍術

貫汪館会報

第79号

発行 貫汪館 発行日 平成二十六年七月六日
発行人 森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

大石神影流劍術第七代宗家継承式

平成26年4月20日(日)、大牟田市西港町の旧三井港倶楽部で、大石神影流劍術第七代宗家継承式が行われました。式は第六代大石英一先生のお言葉に続いて、第七代を継承した大石馨先生から次のようなご挨拶がありました。

「私は4歳の頃から父に連れられて始めた剣道でしたが、思春期の頃から稽古が嫌になってきました。周りからは大石家を継ぐのは自分だと言われることが多く、剣道を続けることにプレッシャーを感じておりました。私には、ご先祖様が伝えてきた大石神影流が大きな存在で、生半可な気持ちで剣道を続けて継承することは、無理だと思い、やめてしまいました。短大を卒業後、イギリスに留学し、11年間のイギリスでの生活を終え6年前に帰国しました。長い外国生活から見た日本は文化、郷土ともとてもすばらしく日本の良さを知ると同時に、歴史ある人物の子孫であることに誇りを持つてるようになりました。私はただ、偶然に大石家に生まれてきたわけではなく、私の人生に必要な学びがたくさん詰まっている場を選んでいくこと、そしてこのような継承式にて継承させて頂けるよう導かれることを心から感謝しております。大石家が代々命をかけて守ってきた大石神影流の末裔としてこの世に生を受けたことを心より有難く思います。父から言われてきた「初心を忘れるな」という言葉とともに諸先生、先輩方、生徒達を通してたくさん学び、

吸収し、精進してまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。大石神影流を多くの方に学んで頂けることを心より望んでおります。」とのご挨拶がありました。



続いて、大牟田市長 古賀道雄様から、「大石家末裔として、この度の第七代継承式には、心から喜んでいきます。私の父も大石神影流劍術の師範でしたし、手鎌道場は英一先生と父が共に創設したと聞いています。市長として10年経ちましたが、その間、大石家の末裔である私の所に面会を求めて市

大石神影流第七代継承式

大石神影流劍術第七代宗家継承式に、貫汪館横浜支部長として参加させて頂きました。貫汪館の演武では、今回、澁川一流柔術では、柔術は素手で戦うものという誤解を解くために半棒、懐剣、十手、分銅などの演武を行いました。無双神傳英信流抜刀兵法では、居合イコール一人で刀を抜き納めするものという誤解を解くために詰合と大小詰の演武を行いました。大石神影流劍術では、大牟田市では例年、陽之表の演武を行なっていました。今回は陽之裏と三學圓之太刀の演武を行いました。大石家の方々、剣道連盟の方々はいずれの演武も食い入るようにご覧になって居られました。

第七代宗家大石馨先生のお人柄に触れて、大石神影流門人の一人として、気を引き締めて稽古をしなければと思いを新たに致しました。

(文責 内住信之)



大石神影流宗家継承式典に出席させて頂きました。第七代宗家の大石馨先生は、小柄で活動的、明るく肚が太い女性でした。剣道を好きになれず、様々なことに取組まれたと挨拶の場で仰っていました。でも今は、それらの経験を通して、家に伝わる大石神影流を見直すことができ、絶やさずに伝えていきたいと言われていました。孫弟子の末席に連なる私ですが、七代宗家を盛り立てて大石神影流を弘めるお手伝いをしたいと思えます。ご挨拶のあとは、いよいよ貫汪館の出番です。私の出番は最後の大石神影流。陽之裏の仕太刀です。この日のために、できる限りの稽古を積んできました。でも、やはり緊張です。円卓が輪のように並んでいるその真ん中で演武します。すぐ横には子供が座って見えます。どうか木刀で子供を叩きませないようにと、そんなことを祈りながらの懸命の演武です。手の内も鼠蹊部も緩めておりましたが、肩に力が入っていた演武でした。次は、安心してみてもらえるように精進をしたいとビールを飲みながら誓った次第です。

(文責 堂元慎介)

大石神影流第七代宗家継承式 に参加して

歴史的一幕に立ち会えたのだと感慨深く思っております。このような機会を与えて頂き、感謝に堪えません。この場を借りて実現に向けて尽力された皆様に御礼申し上げます。誠にありがとうございます。今回は、私は大石神影流剣術「陽の裏」を演武致しました。

実は本番数カ月には私の技は以前より悪くなっていて、悪癖から抜け出せず、改善できない日々がしばらく続きました。幸い、本番が近付いてくるにつれ、少しずつ状態は良くなりました。当日の演武を振り返ると決して十分な演武とは言えないものでしたが、演武の後に来賓の皆様が熱心にご覧になられたとのことのお話を伺い、少し安堵致しました。式典の前日、当日に初・二代大石先生のお墓にお参りできたこと、早馬神社や記念碑などの史跡に立ち寄れたことは特別な体験で、己が由緒ある流派を稽古しており、まだまだ技量未熟な身としては僣越な思いかもしれませんが、その歴史の一部であるのだと感じました。歴史を肌で感じられたことで「自分は大石神影流の門人である」と強く実感することができました。代々伝えられてきた流派の門人であることに誇りを持ち、後世の伝え残すため、より一層精進をしていこうと思いを新たに致しました。

(文責 林大介)



大石家墓参

継承式の前日、廿日市に集合し、継承式の演武の稽古をして、全員で大牟田へ出発しました。

始めに向かったのは、大石進種次先生、二代大石進種昌先生、板井真澄先生、今村広門先生のお墓参りに行きました。その後、大石家旧宅の隣にある早馬神社を参拝し、大石進先生の石碑を見学、また、移動して大石一先生の石碑を見学して、大石家に向かいました。



翌日は、継承式終了後、大石馨宗家とともに貫汪館会員一同再び、大石進種次先生、二代大石進種昌先生のお墓参りに行きました。宗家継承式が無事に終わった報告を致しました。貫汪館一同、大石神影流を盛り上げていかななくてはと、強く心に思いました。



旧三井港倶楽部

継承式が行われた旧三井港倶楽部は、明治41年に三井財閥の迎賓館として建てられました。明治を代表する西洋建築の傑作と言われ、市の指定文化財にもなっています。三井関係の社交倶楽部であるとともに外国船員の宿泊や接待の場所であり、皇族を始め、政財界人の迎賓館としても広く利用されてきたようです。緑豊かなお庭もあり、そのお庭で全員の写真撮影を予定していましたが、あいにくの雨で室内での撮影となり、とても残念でした。お料理もたいへん美味しく、特にデザートはプリンは、絶品でした。大牟田へ行かれた際は、ぜひ、旧三井港倶楽部にお立ち寄りになってはいかがでしょうか。

(文責 竹本治恵)



平成26年度行事予定

- 7月19日(土)～21日(月)
貫汪館特別講習会
- 9月10日(水)～11日(木)
日本武道学会
福山市立大学
- 9月21日(日) 昇段審査
- 10月19日(日) 出雲大社演武会
出雲大社
- 12月14日(土) 昇級審査
- 12月21日(日) 稽古納め
廿日市天満宮
- 平成27年
- 1月25日(日)
立身流初抜演武大会
- 八街市立八街中央中学校
武道場
- 2月8日(日)
日本古武道演武大会
日本武道館